



NEWS LETTER IPPS JAPAN

2009.9
No.38

International Plant Propagators' Society

国際植物増殖者会議日本支部

ホームページ: <http://www.ippsjapan.org>

お問合せ先・事務局
IPPS 日本支部事務幹事: 南出幹生
〒513-0801
三重県鈴鹿市神戸 7-8-5 南出(株)内
TEL 059-382-0040 FAX 059-383-6526
E-mail: head@minamidekk.co.jp

第16回滋賀大会が琵琶湖湖岸で開催

(株)赤塚植物園 藤森 忠雄・西村 富生

国際植物増殖者会議日本支部 (IPPS-J) の第16回滋賀大会が、2009年6月27日(土)と28日(日)に大津市のピアザ淡海(おうみ)で開催されました。琵琶湖湖岸の会場に約70名が参加し、初日は特別講演と研究発表、そして懇親会でびわこクルーズを楽しみました。2日目は産地見学で、タキイ研究農場、緑化技術センター、水生植物公園などを見学しました。

会場のピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)は立派な多目的施設で、上階に併設されたホテルの展望浴場からは琵琶湖の大パノラマを一望できます。琵琶湖は関西の水瓶。日本最大の湖として満々と淡水を蓄え、夏の夕暮れに大勢が釣りを楽しんでいます。心身を癒されました。

滋賀大会実行委員の皆様はピンクのポロシャツで統一され、ひときわ目立っていました。(有)花街道の佐藤実行委員長を始め、武田先生、事務局の稲葉さんら滋賀県の皆様、大会中は気配りの行き届いたお世話をいただき、心からお礼を申し上げます。

今回の特別講演は、まず岐阜大学応用生物科学部福井博一教授による『園芸業界が取り組む花育と



藤森 忠雄



西村 富生

は?』から始まり、その内容は各方面で取り組まれている「花育」について花き園芸業界はどのように関わったらよいのかというものでした。最初に、文部科学省や国土交通省は「花育」を子供の情操教育や世代間交流を目的と掲げているが、「花育」は花き産業振興を目的としていないことを認識すべきであるとの厳しい現実を話されました。しかし、「子供の頃に花が身近にあった人は、一年間に花を購入する確率が非常に高い」という統計結果を示し、母親となる人の「花育」を推進し、10年後、20年後の花の需要を高めるべきだとの主張を述べられました。

2つ目の特別講演は(株)フラワーオークションジャパン取締役長岡求氏の『「Seek & Seek」〜未知の植物に出会う楽しみ〜』でした。以前と違い、インターネットを使えば植物の写真付きマイ



特別講演: 福井先生



特別講演: 長岡様



研究発表の様子

カタログの作成は容易であり、世界中からありとあらゆる植物をコレクションすることができるということを、パソコンを使った実演を交えて説明していただきました。

福井先生の話は消費者の底辺を広げて花き産業を復興することを目的とした話であり、一方、長岡さんの話は消費ピラミッドの頂点を充実させ、近年の大量生産によって減少しているヘビーユーザーやマニアを増やすことにより花き産業を充実したものにすべきだという話でした。全く異なるアプローチとはいえ、両名とも花き産業の復興を目指して努力していくべきだという主張は共通し、花き産業に対する熱い思いをひしひしと感じた御講演でした。

研究発表は10件あり、新しい植物生産技術から学術研究発表、実用的なアイデアの提案までバラエティーに富み、IPPSの理念が十分反映されていました。詳しくは講演要旨集をご覧ください。

特に楽しかったのが、びわこクルーズの遊覧船ミシガンの一室を借り切った懇親会。席はくじ引きだったので最初は固かった皆様も、すぐにうち解け和気あいあいと交流を深めることができました。おいしい料理とお酒で最高に盛り上がった頃、船からのアナウンス。大津の街の夜景と夏の

夜風が心地良い甲板で開催されたショーは、ギターとバイオリンに合わせた踊りがあり、陽気なアメリカンサウンドが弾む愉快的なステージでした。このクルージングを企画された実行委員の皆様、ありがとうございました。本大会に参加できなかった方々、本当に残念でした。その分も楽しませていただきました。

最後に IPPS-J の会旗が滋賀県から、来年開催予定の愛知県（株）ベルディの水谷朱美様に引き継がれました。

2日目の産地見学は、タキイ研究農場から始まりました。タキイ所属の加藤実行委員にお休みの農場内を大型バスで、日本の野菜育種の最先端を案内していただきました。野菜のタネといえばタキイの代名詞。その基盤を支えているのが広大な研究農場での研究開発でした。さらに花き園芸植物の展示場では、タキイが開発した新品種の数々を見せていただきました。

（株）高速道路総合技術研究所・緑化技術センターは、佐藤実行委員長（有）花街道が植物生産で重要な役割を担当しています。特に高速道路のサービスエリアで修景に用いているプランタースタンドは、底面給水システムを用いたメンテナ



滋賀大会実行委員の皆様



懇親会風景



懇親会会場のミシガンクルーズ



甲板でおこなわれたアメリカンショー



IPPS 旗が滋賀から愛知へ引き継ぎ

ンスフリーのユニークな技術です。大型の底面給水型プランターは日常管理が難しい場所での修景のために、長年の創意工夫から生み出された方式です。高速道路を美しく彩る草花の生産は、春から秋にかけて年間4回、180万本を出荷しているとのこと。ほかにも、のり面や中央分離帯の緑化を目的に、多種多様な苗木を大量に生産していました。

草津市水生植物公園みずの森は、三方に琵琶湖の湖水が広がる開放的な植物公園です。中心はハスやスイレンなど水生植物のテーマ館であるロータス館。暑い季節は水生植物がいいですね。ちょうど色とりどりのスイレンが咲いていましたが、いま熱帯スイレンが静かなブームです。(株)赤塚植物園も普及に力を入れており、タイ農場とのリレー栽培によって、いままで入手困難だった各種の熱帯スイレンも販売しています。スイレンが一部の収集マニアだけでなく、家庭で十分楽しむことをこの公園で理解できると思います。隣の琵琶湖の内湾には広大なハスの群生地があることを知りこれも驚きました。

滋賀大会は大変密度の濃い有意義な2日間でした。勉強や今後の参考になっただけでなく、とても得した気分です。参加を見逃した方、大きな損をされたのではないのでしょうか。来年からはぜひ、積極的な参加をお待ちしております。

おみやげにいただいた「サンパチエンス」は大きく育ち、毎日次々と花を咲かせています。本当にありがとうございました。(特別講演の解説は宮崎大学の鉄村琢哉先生にお願いしました)



タキイ研究農場花き展示場



水生植物公園スイレン



緑化技術センターのプランタースタンド



水生植物公園ロータス館

森林総合研究所での優良苗木の増殖

森林総合研究所・森林バイオ研究センター 石井 克明



当研究所は、林業試験所として1905年(明治38年)に設立し、国立林業試験場時代は東京の目黒にありました。その後、1978年につくば市に移転し、2007年には、林木育種センターと統合、2008年には森林農地整備センターと統合し、現在1300名強の職員をかかえています。林木の育種や苗木の生産は、茨城県日立市十王町にある林木育種センターや北海道、東北、関西、九州の地域ごとの4林木育種場が中心になって行っています。生長に優れ、気象害や病虫害に強い品種を開発して、都道府県等に原種として供給し、そこから民間の種苗生産者等を通じて優良な苗木が供給され、全国の森林整備に役立っています。マツノザイセンチュウ抵抗性品種、無花粉や花粉が少ない花粉症対策品種、精英樹と呼ばれる生長の優れた品種等の苗木を生産しています。

1) 花粉症対策品種の増殖

スギ花粉症対策品種の開発では、都道府県と連携して花粉量がこれまでの1%以下の少花粉スギを135品種、花粉を着けない無花粉スギを2品種(「爽春(そうしゅん)」と「スギ三重不稔(関西)1号」)を開発しました。これらの増殖は挿し木で行いますが、短期間の大量増殖を目指して、通常の半分以下の小さな穂(5~10cm)を用いたマイクロカッティングや組織培養でも行っています。爽春の組織培養では、赤色光が生長に効果的であることが判明し、専用の組織培養棟を用いて、5千本の苗木が原種の配布用に生産されました(写真1, 2)。また、無花粉スギと精英樹を掛け合わせて無花粉かつ生長・材質が優れた品種の開発や、遺伝子組換え技術を用いた無花粉スギの開発研究も行っています。

2) 貴重な樹木のクローン増殖サービス

「林木遺伝子銀行110番」と称して、巨樹等の増殖サービスを行っています。高齢で衰弱した巨樹や名木、天然記念物等の増殖をして跡継ぎを育成し、里帰りさせる目的で実施していますが、これまで115件の要請があり、挿し木、接ぎ木、組織培養等の技術を用いて再生させました。例えば、国指定特別名勝金沢「兼六園」のシンボリックな樹木の一つ「根上松」や120年前にアメリカの大統領が来日記念に東京の上野公園に植えた「グラントヒノキ」の後継樹を里帰りさせました。増殖サービスのご希望の方がございましたら、詳しくはHP(<http://ftbc.job.affrc.go.jp/>)をご覧ください。



写真1. 赤色光のもとでの無花粉スギの培養



写真2. 大量増殖された無花粉スギ「爽春」

会員の得意分野の紹介

保存版

2009年8月31日現在

I P P S - J では、会員相互の交流の一環として、Seek & Shareの精神を、それぞれの得意分野にも活かしていく事を企画しました。まだ全員ではありませんが、ご回答いただいた会員の得意分野を紹介させていただきますので、専門分野どうしの情報交換や、知りたいこと等のご質問にご活用いただければ幸いです。

なお、個人情報保護のため、会員名と所属のみの掲載とさせていただきますので、連絡、お問い合わせなどは、会員名簿を参照いただくか、事務局にお問い合わせ願います。

会員氏名	所 属	(得 意 分 野)
城 真一郎	[ジェイズディサ]	ラン科植物 ディサの生産販売、組織培養全般育種、アツモリソウの種苗生産など。ちょっと変わったランが好きです。
不破 規智	[雪印種苗(株)]	シクラメンの育種
金子 朋恵	[株アレフ] [花の牧場事業部]	興味のある植物はバラ、ベニスモモ、ペロニカ
大森 康雄	[有)十勝大森牧場]	
西本 朋恵		
雨木 若慶	[東京農業大学]	植物組織培養〔特に大量増殖〕、開花生理、受粉・受精の生理、植物の成長・開花と光質の関係
小池 安比古	[東京農業大学]	花卉園芸学 宿根スイートピー
大森 一憲	[大森畜産(有)]	グランドカバー植物の生産、卸販売
斉藤 正二	[Chiangmai Setcom Co.,Ltd]	タイ王国在住 園芸植物の生産と輸出
大関 充功	[有)大関ナーセリー]	ブルーベリー、ブラックベリーの専門生産
弦間 洋	[筑波大学]	果樹園芸、特にナシ、モモ、リンゴ、カキ、ブドウ、キウイなどの落葉果樹、植物繁殖、特に挿し木、接木等の栄養繁殖、フルーツガーデン、剪定や整枝法
石井 克明	[森林総合研究所]	森林植物工学、組織培養、簡易フローサイトメーターを用いた倍数性の判定
吉野 圭寿		
加藤 幹久	[幹屋洋蘭園]	鉢花栽培歴36年、組織培養苗の生産(コチョウラン、観葉植物各種)鉢花の生産。
岩崎 直人	[明治大学]	果樹園芸
鈴木 隆博	[株)浜松花き]	ハーブの栽培及び利用法全般
速水 正弘	[静岡県西部農林事務所]	園芸畜産課 花き担当 植物の組織培養(oldバクテ)、花壇作り植物生理、〔環境との関係〕、園芸繁殖技術、環境保全型農業と食の安全・安心

八木 千佳

山口 久男 [山久園] グズマニア類・ニューサイラン・ユーカリの生産、卸販売

水谷 朱美 [(株)ベルデイ] 組織培養苗の大量生産 (野菜苗、花苗など)

石黒 功 [イシグロ農材(株)]

青山 兼人 [(株)兼弥産業] 園芸栽培資材、施設園芸資材、切花流通分野

飯田 邦博 [(株)兼弥産業] 同上

禿 (かむろ) 泰雄 [(有)バル企画] 植物ホルモン類の実用化全般 (上手な使い方を教えます)

高臣 映生 [(株)ハクサン] 園芸植物の輸出入。園芸植物の生産、販売。海外での農場経営。

西川 滋 [タクト(株)] 園芸植物や球根の輸出入。胡蝶ランの生産。生協、ホームセンター、園芸店への卸販売。

新井 正信

福井 博一 [岐阜大学] 花き類の栄養繁殖、栽培環境の最適管理、4倍体の育成技術、堆肥の有効利用・熟度判定

山島 一二 [岐阜種苗(株)] 宿根草類・花木類・健康野菜類の苗の生産、卸販売

富田 正徳 [(株)アイエイアイ] 園芸植物の学名表記の問題、園芸品種名の国際登録 (植物名)の方法等、花き苗の病害についての簡易診断

遠藤 弘志 [(株)揖斐川工業] 花・野菜苗 (プラグ)、トマト他の接木苗の生産、花用培養土、水稻育苗用土の生産、温室内省力システムの設計施工 (ムービングB, クールセルS, ランプ等)

南出 幹生 [南出(株)] 農業資材、灌水資材、園芸容器、醗酵処理

柴田 勝 [(株)王健] 環境・健康・スポーツ武道のコンサルティング、食品加工学 (鈴鹿医療科学大学講師)、「ハナビラタケ」の機能性の研究、健康管理全般のご相談

藤田 宜三 [鈴鹿花き生産組合 (農)] コチョウランの生産

藤森 忠雄 [(株)赤塚植物園] 園芸植物の生産販売、輸出入、シャクナゲ、カルミアの組織培養

奥 隆善 [Flower Frontier Network] 花き育種全般、植物バイオ全般 (特に胚珠培養、倍化处理、フロサイトメトリー分析)

内田 恵介 [グリーンクラフト] カバープランツ、這性コニファー、マット植物 (芝桜、タマリユウ、タイム等)

服部 信好 [信光緑産] 日陰に強い植物 (アオキ、ヒイラギ、アセビ、千両など) に興味があり、生産しています。他に良い植物がありましたら、教えてください。

芝崎 裕也	[南紀グリーンハウス]	パインアップル科チランジア属の品種と栽培環境、室内環境改善植物の考察、園芸療法と園芸福祉
佐藤 伸吾	[有花街道]	花壇苗生産、ガーデン設計・施工
稲葉 英美子	[有花街道]	フラワーメンテナンス、ガーデニング風水(勉強中)
加藤 昌美	[タキイ研究農場]	組織培養全般(花、野菜)、イオンビーム突然変異
武田 恭明	[近江花学研究所]	花の園芸分野全般
北宅 善昭	[大阪府立大学]	施設栽培における環境調節、培地内ガス組成と植物生育、マンガローブ、長期有人宇宙活動支援のための宇宙農業
鈴木 忠幸	[花王(株)化学品研究所]	
井上 純	[和歌山県]	花き類の生産全般、園芸福祉、グリーツリズムに興味あり
仁藤 伸昌	[近畿大学]	日本在来ミカンの品種と由来、接木のメカニズム、挿し木不定根形成のメカニズム、タイ・マレーシア・韓国の果樹研究者との交流の仲介
文室(ふむろ) 政彦	[近畿大学]	果樹園芸学(ミカン類、マンゴ、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ)
武本 勘二郎	[鳥取県竹本園]	日本野生植物(木本草本共)のF種及び繁殖法、杉・桧の変種のコレクション園作り計画中 →種情報提供等ご協力希望
久保田 尚浩	[岡山大学]	
大森 直樹	[株山陽農園]	果樹全般(落葉、カンキツ、ベリー類、トロピカルフルーツ)
大内 巖	[有スコレー]	洋ラン及びフルーツの生産販売、すべてのハウスでクラシック音楽を流して栽培している。
国忠 征美	[グローバルグリーン]	コンテナ栽培植物生産・販売
小野 崇裕	[株テレン]	
島田 有紀子	[広島市植物公園]	ベゴニア類、ペラルゴニューム類の育種と栽培、その他鉢花全般。
岡宗 信明	[岡宗農園]	造園用材料としての低木類(紅花シャリンバイ、ヒメシャリンバイ、オタフク南天、細葉ヒイラギナンテンなど)、新しい造園材料(ファイリヒメトベラ、常緑ガマズミ、トキワマンサクなど)オリーブ、アベリア類、その他地被類約300種類60万本生産、卸販売
大橋 広明	[愛媛大学]	組織培養、花き類、野生植物(山野草類)
越智 佳宜	[精耕園]	山野草の生産と卸販売
武田 剛		
石田 順一		

草野 修一	[有綾園芸]	鉢花栽培全般、ラナンキュラスの育種
川崎 久光	[日本グランドカバー(株)]	造園用グランドカバー・プランツの大量生産（コグマザサ、オカメザサ、シバザクラ、マツバギク、テイカカズラ、ヘデラ類、その他300種類のポット生産）
吉村 豊	[宮崎県]	亜熱帯花木、ヤシ類、ストレリチア＝レギネ
山本 友英	[南九州大学]	組織培養による園芸植物の増殖および絶滅危惧植物の増殖と自生地への返還
芝 俊昭	[シバ洋欄園]	ラン生産
鉄村 琢哉	[宮崎大学]	落葉果樹全般、果樹の挿し木
末吉 伸一郎		
前田 隆昭	[神内南方系果樹研究所]	
Peter F. Wauch Carann		切花生産に関すること、IPPSの規約作成のアドバイス、IPPS本会と日本支部との仲介役、国際の活性化

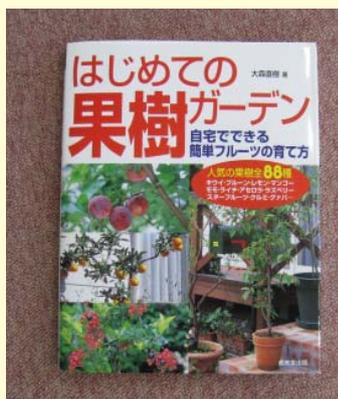
◎敬称略、順不同です。

◎名前のみ記載の方は編集局まで情報の提供をお願いいたします。

また、記載されていない会員、退会された会員、間違いや追加、訂正などお気付きの点がありましたら是非ともご連絡ください。

宜しくお願いいたします。

2009年8月31日 現在



書籍の紹介

大森直樹会員が発行された著書です。

『はじめての果樹ガーデン』

人気のある果樹88種が懇切丁寧に説明されています。

果樹についてはこれ1冊あれば十分です。

皆様、是非お手元にこの1冊をどうぞ。

注文先：(株)山陽農園

〒709-0831 岡山県赤磐市五日市215

TEL：086-955-3681 FAX：086-955-2240

特別寄稿

Japan: A land of Contradiction.

日本：園芸業界の矛盾

オーストラリアリージョン Michael Gleeson

翻訳 近畿大学 仁藤 伸昌 氏



昨年の秋、九州宮崎で開催された IPPS-Japan の年次大会で講演をするために日本を訪れました。関西空港に到着後すぐに目についたのは、空港内のきれいな庭園です。

空港から大阪へは車で移動したのですが、あちこちにきれいな日本庭園が目につきました。それらの庭園には、雲を重ねたように丁寧に手入れされたカイヅカイブキ、石の組み合わせ、タケが配置されていました。道路脇にはきれいに刈り込んだサツキがずっと植えてあり、街路樹もあちこちに植えられ、ほれぼれするような形に刈り込まれていました。街路樹は、タケの支柱が添えられていました。これは、台風の強風を防ぐためのものでしょう。

夜が明け、朝になり、町中を徘徊しました（実のところは車椅子で走ったのですが）。家々の前や、玄関に通じる所、バルコニーなどに鉢やプランターで育てられている植物を見ることができましたし、小さいながらも庭も作られていました。驚くことには、このような植物が通行人によって踏みつけられたりすることなしにきれいに育っていることでした。

大阪城ではキクの展示を、二条城では池と水を中心とする伝統的な庭園を、さらに金閣寺、いろいろな種類のコケが管理されている西芳寺（苔寺？）を見ました。岡山では後楽園の庭園を見学しました。見学した場所は、日本庭園の伝統美そのものと言ってもよい所でした。植物は身近なものが多く、アベ

リア、アガパンサス、コルジリーネ、コトネアスター、フィカス、ヘデラ、ランタナ、ラベンダー、ニューサイラン、ローズマリー、ストレッチア、シコンノボタン、テイカカズラ、クライミングミニローズ、いくつかのグランドカバーコニファーがあります。とくに興味深かったのは、支柱を使ったよじ登るような仕立て方でした。この仕立て方で緑のスクリーンができています。また、ハンギングバスケットで育てたテイカカズラ (*Trachelospermum jasminoides* と *Trachelospermum "Tricolour"*) もおもしろいと思いました。

ここまでお読みになると、日本の人々は、植物や庭園が好きで植物作りに熱心だろうとお思いになるかも知れません。ところがそうではないのです。聞くところによると、実情は、ごくわずかな日本人が園芸の技術を持ち、その知識も基礎的なものだけのようです。日本の人口1億2700万人のわずか15%の人しか植物を購入しません。植物を購入した人達でも、ただ水やりをし、たまに肥料をやるぐらいの知識しかないのです。この旅行中、新興住宅地や都市近郊のベッドタウンを見ましたが、その雰囲気は、オーストラリアと同じようなものでした。多くの家は、丁寧に手入れされた庭を作っていました。しかし、これらの庭は日本式の庭でした。わたくしの10日間の旅行中変わったスタイルの庭を見ることはありませんでした。



道路際の庭



丁寧に手入れされた日本庭園

日本の人々は、経済の高度発達の中にいたものの、本当の庭を持つことが無かったのではないかとも思われ、これが園芸知識の不足の原因になっているのでは無いかとすら感じました。日本はオーストラリアの国土の面積のわずか5%です。日本の園芸市場は10年前には5000億円、5年前には6000億円でしたが、2006年には5000億円に低下してしまいました。

日本を旅行した人々は、日本では、食べ物も、各種のサービスも、燃料も、土地などの物価が高いと言っていることを聞いたことがあるかも知れません。しかしながら、それらの物価に比較して、植物の価格が安いことにわたくしは、大きなショックを受けました。果物店では、マンゴー、リンゴ、グレープフルーツが1個2000円で売られています。しかし、1.2 - 1.5 mもあるきれいに整枝されたサザンカがたった1200円です。15cm鉢に植えた20cmの高さのカエデの接ぎ木苗がわずか1200円、鉢植えのパンジーが250円、セルトレー苗は、10本で500円です。わたしの世話をしてくださった大森直樹さんは、接ぎ木した2年生の果樹苗を販売していますが、1本900円から1500円で販売しています。これが、小売価格ですから驚きです。

大きなホームセンターでは、約20年生のマツの盆栽を見ました。丁寧に針金を巻き付け、枝振りを調整し、高価そうな鉢に植わっていました。オーストラリアで買おうとすれば、2000ドル(200,000円)以上を覚悟しなければならないのに、ここ日本ではたったの130ドル(13,000円)です。



130ドル(13,000円)の盆栽

日本は、オーストラリアと違って園芸に関する宣伝媒体がほとんどありません。大森さんは、時々テ

レビに出演し、果樹栽培について話をしています。しかし、彼の話では、テレビに出演する人の中で生産者は彼1人ではないかとのこと。大森さんは、苗木を購入する人々の園芸知識の不足を補うために、果樹に関する本を出版する必要性を強く感じ、本を書き上げました。

旅行中観光地を回っている間にも専門の園芸技術者が植物を管理しているのを見ました。また、車で走っているときも、市町村役場の園芸担当者が、木を管理したり、垣根を刈ったりしているのを見ました。これらの人々に対して正式な教育訓練が行われていないと聞き驚きました。働くことによって学ぶと言うことです。

園芸センターでも園芸知識のあるスタッフはいませんでした。購買者は植物についているラベルからしか情報が得られません。わたしが立ち寄って園芸センターでは、どこも園芸の本は扱っていませんでした。情報が簡単に入手できないと言うことが、人々の知識不足になり、ひいては、植物材料の購買力低下になるものと感じました。

それに比べ、オーストラリアの園芸では容易に情報を得ることができます。わが国の購買者は、よく教育され、熱心な園芸家たちです。わが国では、園芸に関する情報の提供が活発であり、消費者たちは常に新しい情報を得ることができます。

日本の園芸業界の挑戦は、先に述べたわずか15%の購買者を近い将来50%までに引き上げる方策を考えることです。日本の園芸関係者に必要なことは、ラジオやテレビを利用する可能性を探ることにより、園芸分野での教育を推進することでしょう。

そのことにより、一旅行者としてわたくしが見た日本の現状の矛盾が霧散するものと思います。

【訳してみて】

著者のマイケル氏は皆様方よくご存じの方です。日本の状況をオーストラリアの人に伝えるよう、宮崎への訪問の記事を書いてくださいました。

この報告の中では、わが国の園芸生産物の価格の安さをテーマとし、その理由を探ろうとなさっています。結論として、人々の園芸知識の向上と啓発の大切さを指摘しています。苗を買って帰ってもあとは水やりと肥料やりしかしないと言う現状の指摘は、当を得ているのではないのでしょうか。

追記：①この記事は“Australian Horticultural”誌と著者であるオーストラリアリージョンのIPPSメンバーのMichael Gleesson氏の許諾のもとに掲載するものです。

②訳は、主として仁藤が行いました。

会員紹介 コーナー



タクト株式会社
代表取締役 西川さん

第5回豊橋大会の際に入会されましたが、その後お休みをされており、今年再度入会されました。来年には愛知大会を控え、ご活躍が大変に期待をされています。

西川さんは1984年、それまで勤務されていた繊維関係の会社を退社し、

29歳で独立されました。若い頃過ごした、愛知県豊橋市で園芸関係の仕事が始めることが目的でした。初めは生活協同組合東京（生協）への観葉植物の納入が主な仕事でした。生協との取引は順調に伸びて、数多くの生協との取引が出来るようになりました。同時に得意な貿易実務を生かすために、海外から多くの植物（パキラ、ドラセナ、ユッカ、フィカス類などなど）を輸入し、農家に納入する仕事も始めました。同業者が多くある中で生産者から信頼を得て、順調に仕事を増やしていきました。

1987年には資本金を1,300万円に増資して、配送センターを開設しました。特に『母の日』向け事業として、切花の加工業務を始めました。当時はまだ切花の発送業務をしている会社が少な

かったために、多くの取引先を獲得できたようです。今では『母の日』だけでも20万件以上の発送をしているそうです。

1993年には現在の本社社屋と配送センターを新設して、更に国内の生協への卸販売の拡充と生産者へ各種種苗の販売を拡大していきました。また、

全国のホームセンターへの納品が次第に増えてきたために、植物のストック用のハウスが必要になり近くに温室1,500m²も開設しました。

全国のホームセンターはそれまでは客寄せのために、店の入り口に園芸植物を並べる程度だったのが、本格的に園芸商品に力を入れるようになりました。従って、販売指導をしながら、商品の納入も飛躍的に伸ばすことができました。

海外からの植物の輸入は国内の取引が伸びるにしたいが、順調に伸ばすことが出来たようです。現在取引している国は台湾、タイ、スリランカ、インドネシアなどの東南アジア諸国や中南米諸国、オランダ、デンマーク、アメリカ、カナダと全世界に及んでいます。最近では園芸資材などを中国から輸入することが次第に多くなっているようです。

1998年からはオランダ産の球根（チューリップ、水仙など）の販売を始めたことにより、更に、作業場や配送センターの拡充が必要になり、



生産ハウス



球根の出荷場



タクト(株)本社屋



本社事務所



観葉植物出荷場



発送センター

敷地5,400㎡に1,800㎡の建物を建設しました。

また、この頃から本格的に郵便局から植物を配送する『ゆうパック』へも参入しました。『ゆうパック』だけでなく、多くのお客様から、『母の日』『お歳暮』『お中元』『ゆうパック』と植物の宅配業務の注文を沢山受けるようになり、今日に至りました。

コチョウランハウス



観葉植物出荷場

5年前からはタイ国とのリレー栽培により、コチョウランの生産も始めました。タイで開花直前まで育てた開花見込み株を国内に導入して、開花させて出荷する方法です。他のコチョウランの生産者が生産していない品種(小型種)を生産しています。これらは他の草花や観葉植物と共に生協やホームセンターへ出荷されていきます。

2009年現在では、社員40名、パート従業員約70名を雇用し、園芸植物や資材を全国の生協やホームセンターへ卸販売したり、生産者への種苗の販売をする園芸業界の「トータル園芸商社」に成長させました。

西川さんは素直で誠実な性格ですから、取引先からも従業員からも親しまれ、尊敬されています。タクト(株)が順調に企業として成長されたのは偏に西川社長の人柄によるところが実に大きいのではないかと思います。今後の益々のご活躍が期待されています。

(取材：藤森忠雄)

タクト株式会社

〒441-8077 愛知県豊橋市神野町カノ割 65 番地

TEL: 0532-31-9477 FAX: 0532-32-6620

e-mail: eigyou@e-tact.jp

編集後記

8月30日(日) 夜の衆議院選挙の開票速報にはびっくりしました。

開票率がほんの僅かなのに、当選確実のバラの花がドンドン付けられていく。

付いた人は大喜びだろうが、そうでない人はどんな気分だっただろう。選挙結果については、皆さんご存知の通り。

選挙の開票速報がこれだけ早い国は世界に百数十カ国あるが、日本だけだろうと思う。選挙のない国や選挙があったのに結果の報道が1週間過ぎても2週間過ぎても聞けない国もある。日本では開票作業が完了する前に当落が殆ど決まってしまうのだ。これは日本が世界に誇れることの一つでしょうか。

政権交代を勝ち取った民主党はその結果にびっくりするほどの議席をもらったのでは。議員としての知的資格もないように思われる人までも当選だ!!

逆に負けた自民党は落選するはずがない尊敬されるべき大先生方が沢山政界を後にした。アメリカのオバマ大統領のスローガン「チェンジ」が日本にも伝染してきたかのような皆がびっくりする結果に落ち着いた。歴史的な選挙でした。

多くの日本人は自民党にはもう任せることが出来ないから、この辺でチェンジして民主党にやらせてみるか、というところか。何はともあれ、歴史的な大きな世の中の転換が始まったように思われる。もっと素晴らしい、世界に尊敬される日本になりたいものです。

そうそう、これはIPPJのニュースレターです。私達は植物の増殖を通じて、人々の心に喜びを与え、住む環境に潤いを持たせて、以って、世の中に貢献をしたいと考えますが、会員の皆様はいかがでしょう。

(ニュースレター担当：藤森忠雄)